

令和4年度の学校経営について

1 小中一貫教育目標（学校教育目標）



平成30年7月に、吉原小学校・伝法小学校・吉原第一中学校の保護者・地域住民・教職員を対象とし、中学校卒業時の「願う子供の姿」に関するアンケート調査を実施しました。多種・多様な御意見をいただきましたが、同年10月の3校合同学校運営協議会における協議を経て、校長等連絡会にて、大きくは『目標に向かえる』『自ら行動できる』『思いやりがある』の三つの姿に集約されるものと判断するに至りました。

これを踏まえ、学習指導要領に基づき、子供一人一人の「生きる力」を育むことを目指すため、吉原第一中学校区の子供に対して家庭や地域社会とともに3校が育成すべき資質・能力を『あこがれ』『チャレンジ』『笑顔』の言葉で表現することにしました。

『あこがれ』とは、夢あるいは目的・目標であり、主体的・協働的な歩みの結果として子供自らが到達を願うゴールのことです。そこに到達した姿、到達しようと真摯に努力する姿が、他者のあこがれとなることもあります。

『チャレンジ』とは、あこがれに向けての挑戦であり、その戦略・戦術をも含みます。見通しや振り返りに基づく試行錯誤を繰り返しつつ、主体性と協調性をもって確実に歩み続ける姿のことです。個としても、チームとしても、挫折に屈することのない強さも必要です。

『笑顔』とは、あこがれへのチャレンジの結果や過程から得られた充実感・満足感を実感している姿であり、それまでの営みや成果・課題等を仲間とともに共有し、喜び、認め、励まし合う姿のことです。

これを、これまでの学校教育目標に替え、3校が共有する「小中一貫教育目標」として設定することとしました。

なお、平成3年建立の石碑に刻まれた従前の学校教育目標「いい顔 いい動き」は校訓として位置付け、小中一貫教育目標の具現に向けた様々な活動場面において、一人一人の子供のよさを見出し、価値付けるための指標として活用していくこととします。

(1) 小中連携・一貫教育

平成30年3月、富士市は「つながる学び ひろがる未来」をスローガンとした「小中連携・一貫教育基本方針」を策定し公表しました。これは、小学校と中学校との「たての接続」と学校と家庭・地域との「よこの連携」により、「学び合い 学びつづける『ふじの人』づくり」の実現を目指すものです。

未来を切り拓く子供一人一人の「生きる力」を育むためにも、小中学校は、相

互の理解を深め、義務教育9年間を一体として捉えることによって、子供の学びの連続性を保障し、一貫した教育の充実を図る必要があります。

また、知育・徳育・体育の調和の取れた育成は、学校、家庭、地域が互いに連携し、環境を整え、充実させることによって図られるものです。

そこで、吉原第一中学校区3校は、平成31(2019)年度より、小中一貫教育目標を協同して設定するとともに、この方向性に基づき、学習指導、生徒(生活)指導、特別活動指導を中心とし、教育の一貫性を深めるための取組を推進することとしました。

(2) コミュニティ・スクール

吉原小学校・伝法小学校・吉原第一中学校の3校は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、富士市教育委員会により、学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールに位置付けられています。この制度は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことにより、「地域とともにある学校」づくりの推進を求めるものです。本市の「小中連携・一貫教育基本方針」が示す「よこの連携」を強化するためにも積極的にこれを活用していくことが重要です。

現在、本校には、CSボランティアとして、多くの保護者や地域住民の方々が協力の手を差し伸べてくださっています。これまでに、総合的な学習の時間・国語科・社会科・生活科等の授業、読み聞かせ、花壇づくり、清掃活動、購買ボランティア、図書ボランティア等の様々な活動で支援をいただいております。この取組は着実に前進しています。過去2年間にわたり、コロナウイルス感染症予防のために、かなりの制約があったにも関わらず、学校に対する協力の姿勢は変わっていません。

今後も、CSボランティアへの登録を進めていき、教育活動に支援をいただくとともに、地域社会から学校に求める活動に対しても随時協力していくことが必要です。

2 令和4年度の重点目標

次の一步で「未見の我」へ

＜数値目標＞学校が楽しい：96%

がんばっていることがある：85%

子供たちの実態から、まず目標とすべきは、児童の内面にある声(心の声)が育つこと、勇気をもって取り組むようになること、自分の力を信じることなどであると、全職員で話し合いをしました。自分の力を信じて取り組むことができるようになれば、自らの変容に自信を持ち、次の目標に向かうことができることは確かなことだからです。これらの力は、社会に出ていくためには必須であり、学校教育で身に付けたい力でもあります。

そこで、次の一歩を踏み出した子には、今までの自分とは違った可能性を持つ自分との出会いを期待し、「未見の我」への挑戦を位置付けることにしました。

周知のとおり、「未見の我」とは、吉田松陰が門下生に対して語った言葉として知られています。「未だ見たことのなかった自分を目指しなさい。心は熱く、一生に一度くらい、本気でやってみなさい。必ず達成します。運命を創りなさい。」という意味です。

私たちは、子供の可能性を信じて、その才能を開花させたいと考え、次の一歩を踏み出す子供を応援したいと思います。

3 教育活動の柱

(1) 学習指導部

- ア 主体的に学び、ともに創りあげる授業を実現します
- イ 個を支え生かす指導を充実させます

(2) 健康安全指導部

- ア 運動能力の向上および運動の習慣化に向けた指導の工夫をします
- イ 基本的な生活習慣を確立します

(3) 生活指導部

- ア よりよく生きるための道徳教育を充実します
- イ 人としての基盤を固める生徒指導を充実させます

(4) 特別活動部

- ア よりよい人間関係の形成
- イ 社会参画意識の高揚を図ります
- ウ 自己の生き方をみつめ、自分のよさや可能性を伸ばす活動を行います